

【奥方が予約の帰省晴れまくり 感謝感激雨あられ無し】

臯月 9 日から 11 日まで一年ぶりの里帰り。昨年 4 月は小生が強引に計画を立てて帰ったので、クールファイブの歌の通り「長崎は今日も雨だった」。今年は藤山一郎が「長崎の鐘」で歌ったように「こよなく晴れた青空を」毎日眺めることが出来た。

現在読売新聞の連載で「時代の証言者」として登場している橋幸夫が吉永小百合とデュエットした「そこは青い空だった」で搭乗したのは「夢のジェット機 727」だった。727 は ANA のキャンペーンソングで登場したが、今回小生たちが搭乗したのは JAL の 737 だった。



727 とあのジャンボ 747 はもう消えてしまった。あーあー。
晴れ渡った空のもと、実家でリハビリに励むお袋が昨年より元気になっていたので一安心。0 戦乗りだった親父の墓参りも無事に終えて、長崎の美味しい刺身を堪能しました。

9 日の初日は実家から歩いて 3 分ほどの所に来て予約しないと席が取れないという人気チェーンの店、「住吉亜紗 藤ノ屋」。夕食の後、すぐ実家に立ち寄れるのはとても便利だった。

10 日夜は、中華新地街近くのホテルからもほど近い「甲田食堂」。いずれの店も東京だとインバウンド価格で二人で軽く一万円は超えそうな料理だが、インバウンド価格では無いので助かりました。「美味しい、高くない」で大満足となりました。



晴れ渡る長崎の空眺めつつ ぶらりさるいて夕食の店
ぐるなびで長崎の店検索し 初めて入る世になりにつけり
チャンポンもトルコライスも横に見て 刺身三昧お値打ちの味

【先進のスマホで撮った電話機は 明治大正昭和の名残】

臯月 11 日の帰京当日朝、ホテルから直行したのは長崎の高級品土産として有名な「からすみ」製造販売元の「小野原本店」だ。

「からすみ」は小さくて持ち帰りは便利だけど、値段がそれなりになるので、思い切ってパスすることにした。その代わりに手頃な価格と美味しさが評判の「からすみパウダー」を購入。ふりかけ代わりにするし、パスタと絡めてもいい味になる。何より値段が庶民向けで嬉しい。

小野原本店は安政六年（1859 年）創業と暖簾にある。単純に計算すると 165 年目になる。よくぞ続いていると改めて思うばかり。

久し振りの店内を眺めていたら、骨董品的な電話機があるのに気がついた。数年前には無かったような気がする。100 円と 10 円を入れる穴があるので、「この電話はかけられるんですか？」と尋ねる。「今は線が繋がってませんが、繋ぐとちゃんとかけられます」とのこと。携帯電話に慣れた身には、一度使ってみたいと思わせる電話機だ。電話でキスの前だろうから電話で接吻の時代の代物になるのかな。

さて、「からすみパウダー」を買った後、もうひとつの定番の福砂屋のカステラを買い求めると、創業寛永元年で 400 周年を祝っているとあった。美味しいものは歴史を作るんですねえ。



定番の長崎土産訊かれば からすみもよしカステラもよし
何百年続く老舗の周りには ドラッグストアや百均ショップ

